



令和元年11月27日
海上保安庁

いざ、ペンギンの待つ海へ！

～第61次南極地域観測隊に女性海上保安官が参加～

海上保安庁では、南極観測船「宗谷」による観測から南極観測に参加していますが今年も、南極地域において、船舶の航行安全の確保、地球科学の基盤情報の収集などを目的とした海底地形調査や潮汐観測を行うために職員が参加し、南極観測の一助を担います。

今回参加する隊員は、当庁として、平成19年以来11年ぶりの女性隊員です。

南極地域観測は国際協力のもとに国が行う事業であり、関係機関がそれぞれの担当分野の観測等を行っていますが、海上保安庁では船舶の航行安全の確保、地球科学の基盤情報の収集などを目的とした海底地形調査や潮汐観測を行っています。

国際水路機関（IHO）の中の南極地域水路委員会（HCA）の取組みとして、各加盟国は海図の刊行をその責務として実施しており、日本（海上保安庁）は南極周辺海域のうち昭和基地周辺の海図を刊行しています。今年、南極観測船「しらせ」には、新しいマルチビーム測深機を装備し、更なる精密な海底地形データの取得が期待されます。また、海底地形調査や潮汐観測の際に得られたデータは地球科学の基盤情報として活用されることにもなります。

昭和31年から、南極地域観測隊が組織され、今年で第61次隊となりますが今回参加する

池内 柚か愛（いけうち ゆかを）（海洋情報部海洋調査課）

隊員は、海底地形調査や潮汐観測に携わる隊員としては101人目、平成19年以来11年ぶりの4人目の女性隊員です。南極観測船「しらせ」に乗り、12月2日オーストラリアから南極の昭和基地に向けて出港し、約4カ月の観測に従事したのち、来年3月22日に帰国する予定です。

当庁としては、南極地域における船舶の航行安全の確保のための海図刊行、地球科学の基盤情報の収集に資する観測に積極的に関与してまいります。



昭和基地での潮汐観測



当庁が刊行する南極周辺海域の海図